

世々條々楠家の軍学家刻成海軍

八幡五諸由右之海軍對列乃八幡之根

夫以守依の千後乃事少く神功皇后新羅と異法

しき帝朝の時對列は八流残し主くしき

は後我精靈は旗小孫りい地乃守後波

海に長く夷水と防と可くと千故と七人其

御旗といふ心はと三八幡と各領八月十有紀

日光十六将之項

かろく、其兵心始り可見

蜂谷重忠通次

大久保春長忠次

三木水谷暎輔

内卷常信正成

大久保正常信忠成

柳原武部右美濃

本田中務忠隆

松平左近忠次

東照宮

光

酒井忠利忠次

伊井忠義補要

鳥居左近忠成

平岩主中隊要

阪部忠成正成

鳥居正常忠成

赤津播磨介清心

渡部半忠美綱

龍池山又雲院に京に降の南京極道より小川の津土宗
より智恩院に屬といふ尊河酒院佛惠心僧故
乃作りより同基の貞安上人といひ人安土論の時津
家より 又小川より信長公尊く流儀しるひに別
八幡小西光寺と建立しより貞安公の任職の時よ
信長公の御父子明智光秀なるよ申害しより貞安
上人傳へしよりより貞安公の京極小宮二條馬丸の邊よ
庵室と名ましくしよりより山菩提と名ましくし後
秀公の命より依りて天正の末に織田信忠公の遺
のしる人南院と草創しよりよは郷乃は法名に

大雲院殿之品羽林仙巖居士と稱し信長公安土津
在城の時貞安上人小七種乃奇物と賜る今南院の什寶
之中法然上人の二枚記護入りり是二休和尙の筆も
より貞安公繪續りり其達摩大師の後の画なり
其額曰
達摩悟りよりよりよりよりよりよりよりより
てのしる人南院と草創しよりよは郷乃は法名に
九年まより座せんといふ事無ゆり
誠の時を承院の二夢

一休判

佛印所より

傳因法然活如来

安坐蓮華上品臺

尼入道因愚癡輩

一枚起請文寂壽哉

南無阿彌陀佛

以外達摩虛堂の如く法の然る一大事を奉
奉信我おんりう津古宗に成中元賢

應仁二年二月

新剛恩院

一休判

佛印所より

澤庵和梅下食

むら見し花の姿を散らす

志はらうる海と

神祖授教の時海と通る新

我とかくし海と通る海

のふらと海と通る海

澤山鳥と白鷺と其妻と其知との海

はらうる海と通る海

乃て京

後水尾上皇

世の中をいふは横

芦間乃蟹乃の世や

後水尾院御製

敬はるるいしと横を先とせりれ

凡へりりて世の中とてしりりりり

古は唐も髪と結るとり我妻とありしもの

とてたまはるる若物やとけり髪は結ゆると

事有るれも古款とて

くくくく物やと髪と肩と結

くくくく髪と結ゆると

と結る古は朝も夕も結道知る人なり

横別加嶋村富光寺什物

院源太景季初着後富光寺に寄附状

今度大將範頼卿

に御下知長別文字同

今度陣平依天下静温

武運を久祈禱令に

抽丹誠を賜陣に功

可謝意貴とて流

元暦三年

二月十日

景季

實乃法師